

阪急沿線 19 駅目 ちょい駅散歩

阪急 **おおみや**
大宮
HANKYU ŌMIYA

← さいいん SAIIN → ← からすま KARASUMA →

駅から歩いて10分ほどの壬生寺付近は、新選組がその誕生から絶頂期までを過ごした場所として有名だ。武士よりも武士らしくという理想ゆえに、鉄の掟「局中法度」で自らを縛り激動の幕末を駆け抜けた隊士たち。その息吹が感じられる屯所跡や寺院を訪ねよう。



大宮駅 所在地 / 京都市中京区四条通大宮西入錦大宮町
設置 / 1931年3月31日

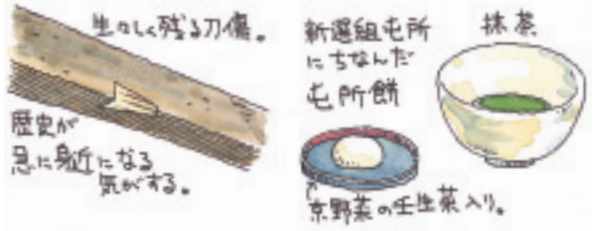
幕末に華と散った若者たちの夢の跡



新選組発祥の地・壬生屯所旧跡 八木家 この門に表札を掲げ「新選組」は誕生した

新選組の最初の屯所跡として現在も内部を公開中。壬生村きつての旧家であった八木家は、新選組の面倒をよく見ていたそうで、屯所を移した後も懐かしんだ隊士が訪ねてくるほどだったとか。また初期の筆頭局長・芹沢 鴨を、土方らが酒に酔わせ、雨の降る中寝込みを襲い暗殺したのもこの邸。鴨居にはその時の刀傷が、奥座敷には血痕のついた文机が今も残っている。

- 大人1,000円(抹茶、屯所餅付き)、中高生1,000円(抹茶、屯所餅付き。拝観のみは600円) / 9:00~17:00(受付は~16:30) / ☎075-841-0751(京都鶴屋鶴寿庵)

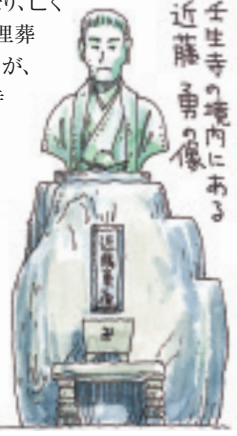


※随時ガイドによる説明あり。また邸手前では和菓子屋「京都鶴屋鶴寿庵」が営業中。



新徳禅寺~壬生寺~ 旧前川邸~光縁寺 伝わるエピソードと共にゆかりの地を巡ろう

当時の壬生村は農村地帯で二条城まで見えたといひ、それが隊士らをどれほど奮起させる跳めだったかは想像に難くない。上洛してまず新徳禅寺に集められた近藤らは、そこで浪士組の真の目的が將軍警護ではなく尊皇攘夷の実行と告げられ、組を脱して京に残った。これが新選組の誕生につながる。壬生寺は、境内が隊の兵法訓練に使われ大層迷惑したそうだが、しかし、沖田が近隣の子どもを集め遊んでいたなど微笑ましい話も伝わっている。上述した八木家と同じく新選組の屯所となった旧前川邸は、池田屋事件の発端ともなった攘夷浪士・古高俊太郎への拷問が行われ、また総長・山南敬助が隊を脱走した罪で切腹させられた場所でもある。その山南の墓があるのが光縁寺。生前の山南が自分と同じ紋所であったことからこの寺の住職と親しくなり、亡くなった隊士らの埋葬を依頼したというが、自らもまたその寺に眠ることになるとは皮肉な縁か。ここには「沖田氏縁者」と記された女性の墓もあり、沖田の恋人のものかともいうが、未だ謎のままで。



- 【新徳禅寺】内部非公開 ●【壬生寺】9:00~17:00(新選組隊士の墓所・壬生塚は参拝料100円、壬生寺歴史資料室は大人200円、小中高生100円。共に8:30~16:30) / ☎075-841-3381
- 【旧前川邸】内部非公開。土・日曜・祝日のみ玄関にて新選組グッズを販売(10:00~17:00)
- 【光縁寺】供養料100円 / 9:00~17:00 / ☎075-811-0883

新選組とは…

文久3(1863)年、將軍家茂公の上洛警護のため結成された浪士組を前身とし、そこから離れた近藤勇、土方歳三、沖田総司らが、京都守護職・松平容保公に京の治安を任せ、賜った隊名が「新選組」。池田屋事件でその名を一躍京に轟かせ、攘夷浪士を取り締まる一方、厳しい「局中法度」で隊内での粛清も行った。しかし時流に逆らえず、やがて薩長軍により賊軍とされ、局長・近藤は板橋で斬首、副長・土方も函館で戦死する。